

平成 29 年度第 3 回労働者安全衛生対策部会
(平成 30 年 1 月 23 日開催) における追加質問についての回答

	質問内容	回答【東京電力ホールディングス株式会社】
1	<p>(河井原子力専門員) 資料 2 (P12、15) ●『設問 1 1 (1 1 - 2), 設問 1 3』アンケートの回答に『不安』というキーワードが諸処に出てくる。 『漠然とした不安』、『思い込みによる不安』等を払拭するためには、単に技術的に丁寧な説明を行うだけでなく、不安が生じるメカニズム(心理的なものが主体と思われる)まで踏み込んで、不安を払拭する対応が必要と考えられる。 このような点に関する方策は考えているか? (リスクコミュニケーション、カウンセリング等のやり方と、実施運営方法等の分野の識者からの意見聴取等)</p>	<p>設問 13 の放射線に対する不安については、「漠然とした不安がある」と全回答者の 1 割弱の方が回答されています。 これに関連して、設問 11 では Yゾーン装備で Gゾーン作業をしている理由として、ごくわずか(全回答者の 1%弱)ではありますが、健康への影響を上げています。 こうした漠然とした不安の要因は、やはり放射線という目に見えないものへの不安が起因していると思われます。 なお、福島第一で働くこと自体の本人の不安については、第 5 回アンケート(設問 15)より聞いており、不安を感じると答える方は減少傾向にあるとともに、不安を感じる理由もある程度特定されています。 こうした結果を俯瞰し、引き続き、放射線に関する正しい知識を習得頂けるよう注力していくとともに、作業員の方々が不安に感じる点についても有識者の意見を聞きながら丁寧に対応していきたいと考えています。(相談窓口の活用、カウンセリングなど)</p>
2	<p>(河井原子力専門員) 資料 2 (P13) ●『設問 1 2』問 1 2 - 1 の自由意見のうち、1 点目と 2 点目は作業効率低下や手間増大の問題と解釈できるが、3 点目の『汗でぬれると呼吸がしにくい』は装備の欠陥に関する問題として対策を講じるべきではないか?</p>	<p>DS2 マスクは紙製のマスクとなるため、全面マスクと比較すると呼吸は楽になるものの、汗による湿りで呼吸がし難くなることがあるため、現場での交換手順を定め、適宜、交換できる運用としております。 今後も引き続き、放射線管理員を通じて適切な交換手順の周知を行い、作業員の方の理解を深めていきたいと考えます。</p>
3	<p>(河井原子力専門員) 資料 2 (P27) ●『参考(2) 企業種別』アンケートの回を追う毎に、プラントメーカーと建設会社が減少し、東京電力グループ会社が増加しているが、この変化についてどう評価するのか、今後の推移も含めて、評価結果がどこかに示されているか? 所属企業の位置付けが変わると、作業者の教育・訓練や技術伝承の仕方も変えて行く必要が生じる等、様々な要件と関連するデータなので、結果の提示だけでなく、きちんと評価すべきである。</p>	<p>プラントメーカー及び建設会社には、震災以降、汚染水処理設備や貯蔵設備、プール燃料取り出し設備、雑固体焼却設備、固体廃棄物貯蔵庫、建屋内への汚染水流入抑制対策等の建設工事を中心に協力頂いています。 一方、当社グループ企業には、保守点検や試料分析業務の他、各休憩所でのサーベイ業務や車両サーベイ業務、放射線防護装備の管理・補充業務、清掃業務等の定例業務を中心に協力頂いています。 このため、廃炉作業の進捗に伴い作業員の技能や特性も変化します。 こうした各役割を踏まえ作業員に要求される特性や技能に応じた教育訓練を元請会社と協力して引き続き実施し、廃炉作業を安全に進めていきます。</p>
4	<p>(河井原子力専門員) 資料 3 (P5) ●『2. 管理対象区域区分と装備の変化』現行区分の防護装備の DS2 マスクの適用は『呼吸が楽』という点である旨の説明があったが、資料 2 のアンケート設問 1 2 の『汗でぬれると呼吸がしにくい』との意見に関してどう評価するのか?</p>	<p>ご質問 2 の回答となります。</p>